



①松田小学校は「お茶屋学校」

松田小学校は松田惣領、松田庶子2カ村の公立学校「貫穿舎支校」として、今から100年以上さかのぼり、明治6年（西暦1873年）5月、延命寺からスタートしました。そして明治10年（西暦1877年）に現在地に移り、明治12年（西暦1879年）に貫穿舎支校から分離して、「松田学校」と名前が変わりました。その後は、学校制度が始まったばかりの影響で、めまぐるしく学校の統廃合が続く、変化を繰り返すことになり、やっと落ち着くのが明治22年（西暦1889年）です。この年は、松田惣領、松田庶子、神山村が合併して松田村となり、同時に「松田小学校」が誕生し、校舎も新しく出来ました。

当時の校舎は、日本家屋様式の二階建て。屋根は杉皮ぶき、出入口や窓は障子張りで、

当時の松田にあった旅館と似ていたことから「松田のお茶屋学校」（下写真）と呼ばれました。

明治42年（西暦1909年）に松田村が松田町となり、新たにスタートしますが、学校に影響もなく、移行したようです。

明治44年（西暦1911年）には、お茶屋学校と呼ばれていた校舎から、新しい校舎へ建て替えられ、この新校舎は増改築を繰り返しながら、昭和30年（西暦1955年）まで使われました。

現在、使われている校舎は、昭和49年（西暦1974年）に出来たものです。



②村民の寄付で建てられた「寄小学校的校舎」

寄小学校的は明治6年（1873）柳川村第106番小学誠意館校が福昌院に置かれ、始まりました。当時の児童数は35名でした。

明治8年（1875）7カ村が合併して寄村となり、平屋建ての校舎が建ちました。翌

9年には校名も寄村第108番小学弥勒寺学校と改称、12年には寄村第108番小学寄村校、（13年）寄村公立寄学校、（14年）足柄上

郡寄学校、（15年）寄村立小学寄学校と毎年、校名が変わりました。学校制度が始まったばかりで、仕方のないことだったのでしょう。

そして明治18年（西暦1885年）に、現在地に校舎が新築され、21年には井上毅文部

大臣が寄を訪ね「我もまた住まはやくしも思ふ哉みやまのおくの寄の里」と寄の素晴らしさを詠っています。今から124年前のこと

で、その詩の碑は寄小学校入口に建っています（下写真）。

明治25年（西暦1892年）には寄村立尋常小学校、36年には寄村立尋常高等寄小学校と改称しました。明治42年（松田村が松田町

になった年）には126坪の校舎を増築、さらに運動場も整備され、広くなりました。この校舎は、村民の寄付によって建てられたもので、村民が教育に熱心であったことがわかりますね。

大臣が寄を訪ね「我もまた住まはやくしも思ふ哉みやまのおくの寄の里」と寄の素晴らしさを詠っています。今から124年前のこと

で、その詩の碑は寄小学校入口に建っています（下写真）。

明治25年（西暦1892年）には寄村立尋常小学校、36年には寄村立尋常高等寄小学校と改称しました。明治42年（松田村が松田町

になった年）には126坪の校舎を増築、さらに運動場も整備され、広くなりました。この校舎は、村民の寄付によって建てられたもので、村民が教育に熱心であったことがわかりますね。

大臣が寄を訪ね「我もまた住まはやくしも思ふ哉みやまのおくの寄の里」と寄の素晴らしさを詠っています。今から124年前のこと

で、その詩の碑は寄小学校入口に建っています（下写真）。

③松田で「象」が働いていた

大正10年（西暦1921年）に、中村舜次郎さん（後に町長）が、東京資本の最先端の人絹糸工場を上茶屋地区に誘致しました。中

津川と四十八瀬川が合流し川音川となる水量の多い場所が水力発電に適していたのかもしれない。驚くのは、この工場を建設する

際に資材、機械などを東海道線松田駅から上茶屋地区まで「象」を使って運んでいたこと

です。この象がどこから来たのか、どのように飼育されていたのか、その後にな

ったのかはわかりません。

この工場の建設に指揮を執ったのがドイツ人の技師でした。この技師は延命寺近くの家

臣が寄を訪ね「我もまた住まはやくしも思ふ哉みやまのおくの寄の里」と寄の素晴らしさを詠っています。今から124年前のこと

で、その詩の碑は寄小学校入口に建っています（下写真）。

（レンガ造りの家があったとの話もあり）に住み、子どもたちに鉛筆やノートをあげたりしたのでとても人気があったようです。大正11年（西暦1922年）6月7日、ついに東京人造

絹糸製造所の工場（経営者、町山徳之助さん）が完成しました。従業員数は100名を越え、

若い女性たちにはこの工場で働くことが憧れ

でした。

しかし、この工場は大正12年（西暦1923年）9月1日の関東大地震のときに、研究室のアルコールランプが原因で、全焼してしま

いました。松田では、多くの家屋が崩壊しましたが火災はこの1件のみでした。この工

場の操業した期間は、たったの1年3カ月ということになりました。その後、工場は、静岡県吉原（現在の富士市）に移りました。

象が働いていたことなど、今では想像もつきませんが、当時、初めて象を街中でみた松田の人たちの驚きはどんなものだったのでしょうか。想像するだけで、楽しくなる歴史の一コマです。

